館山から新種のヤドカリを発見！ー チゴツノヤドカリ

千葉県立中央博物館動物学研究科長　駒井智幸

論文：Komai, T. & Yoshida, R. 2020. A new species of the hermit crab genus *Diogenes* Dana, 1851 (Decapoda: Anomura:Diogenidae) from shallow coastal waters in Japan. Zootaxa 4722(6): 571–582.

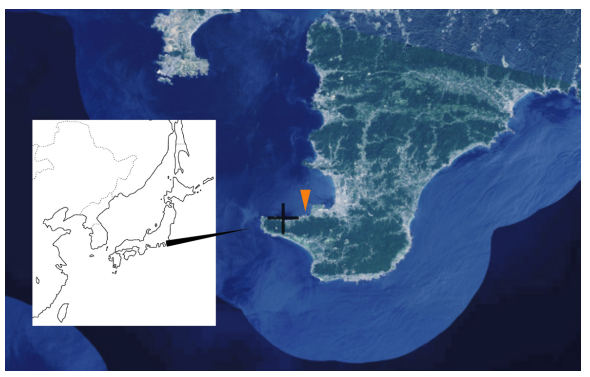

図 1．館山市香の場所．国土地理院の航空写真に基づく．

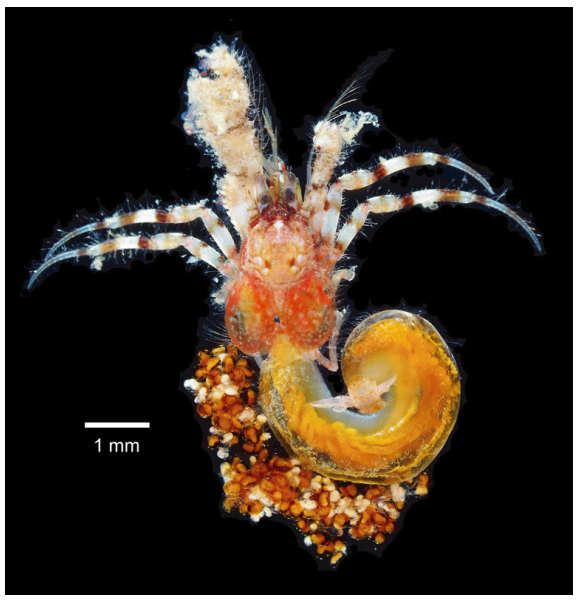

図 2．*Diogenes minimus*（チゴツノヤドカリ）のホロタイプ（♀）．千葉県立中央博物館所蔵 CBM-ZC 15429. 撮影：吉田隆太

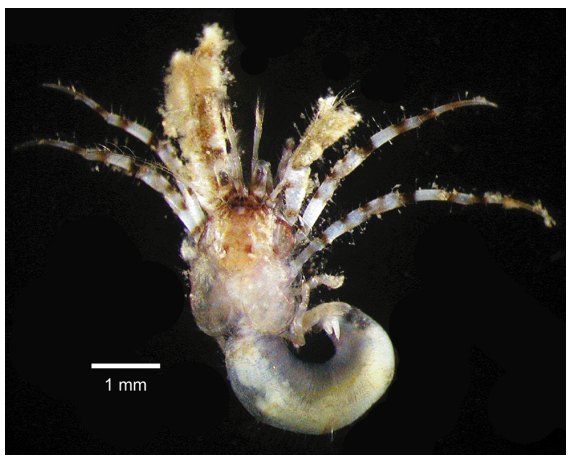

図 3．*Diogenes minimus*（チゴツノヤドカリ）のパラタイプ（♂）．千葉県立中央博物館所蔵 CBM-ZC 15430. 撮影：駒井智幸

研究の概要

館山市の香（こうやつ）（図１）にあるお茶の水女子大学湾岸生物教育研究センターでは，学生実習などの機会にセンター前の海でドレッジ採集を実施してきました．本研究では、第１著者の駒井が実習の講師として参加した時（2007 年）に採集した標本と，第２著者の吉田隆太博士（お茶の水女子大学湾岸生物教育研究センター）が 2018 年に採集した標本等を合わせて検討し、新種の発見となりました。今回見つかった新種 *Diogenes minimus* はヤドカリ類としては非常に小型（抱卵個体で前甲長 1.3 mm ほど）であることや、標本の採集が容易ではないことなどの理由により、最初の発見から新種として発表されるまでずいぶん時間がかかりました。種小名「minimus」はラテン語で「小さい」を意味します。和名はやはりその小ささにちなんで「チゴツノヤドカリ」と命名されました。

図 4．*Diogenes holthuisi* のパラタイプ（♂），小笠原諸島弟島産．千葉県立中央博物館所蔵 CBM-ZC 9749. チゴツノヤドカリの近縁種．撮影：立川浩之

ツノヤドカリ属とは？

本新種が属するツノヤドカリ属には，これまでに世界から 67 種が知られていて，そのうち 14 種が日本から記録されていました。ヤドカリというと磯の生物というイメージがありますが，ツノヤドカリ属のヤドカリの多くは干潟や砂泥底に生息します。形態的な特徴としては、左側の鉗脚が大きい、水中の懸濁物をろ過できるよう第２触角鞭状に羽毛状に長い剛毛が並ぶ、などが挙げられます．研究はまだ十分に進んでいないため，種多様性はまだ十分に解明されていないのが現状です．まだまだ新種が見つかるのではないかと予想されています。

発見の意義

今回の新種は、小笠原諸島から知られている *Diogenes holthuisi* Asakura & Tachikawa, 2010 に近縁であると考えられます．特に、carapace lateral lobe という場所に３～４本の棘を持つという特徴を共有します．しかし、第 2 胸脚の腕節上縁に複数の棘を備える，オスの左鉗脚は特に伸長しない，などの形態的な違いが認められます。また、図 2～4 に示したように生きている時の色彩もずいぶん異なります．両種とも，抱卵個体ですら前甲長で 1.3 mm 程度ととても小さく，ヤドカリ類の中でも世界最小クラスといっていいでしょう．チゴツノヤドカリは，館山湾の比較的浅い場所（水深 5～19 m）から見つかりましたが（館山湾の他，伊豆半島の下田でも標本が採れています），ドレッジなどの採集器具を使わないと標本の採集が難しい場所です．南房総からはこの数年の間にもエビ・カニ類の新種が見つかっており，まだまだ未知の生物がいることは間違いありません．これからも一つ一つ、新しい発見をしていきたいと考えています。また、まだまだ未知の生物がいる豊かな海に思いを寄せていただければと研究者として大変うれしく思います。